

## 滴一滴

今年の山陽新聞賞に8人、3団体が選ばれた。地域に根差し、さまざまな分野で活躍、貢献してき

た実績が輝きを放つ▼文化功労は4人。神崎宣武氏は幅広い分野をカバーする民俗学者で、「国民文化祭・おかやま2010」の総合プロデューサーを務めた。備前焼作家の小西陶蔵氏は、伝統に現代性を重ねる表現法を追求してきた▼洋画家の難波滋氏は、油絵に日本画の装飾性を加えた独自の画風を確立。デザイナーの水戸岡鋭治氏は、発想力豊かなデザインで列車や街並みなど「公共空間の上質化」に情熱を注ぐ▼社会功労は自動車事故対策機構岡山療護セ

ンター長の衣笠和孜氏。脳血管内治療をリードしてきた。

学術功労の岡山大学院教授の西堀正洋氏は、炎症反応の研究などで知られる▼産業功労はメイト会長の赤岩達重氏。主力製品のプラスチック磁石材料は各種機器に使われ現代生活を支える。国際功労の菅波茂氏は、国際医療ボランティア・AMDAの理事長として難民や被災者の支援に貢献してきた▼山陽新聞奨励賞は、音楽文化の普及・向上を図る岡山フィルハーモニック管弦楽団、地域の文化財の保護と活用に取り組む福山市文化財協会、返還不要の奨学金で進学を支援する財団法人大本育英会。受賞者の熱い思いと努力をたたえたい。